

6:1 これは、あなたがたの神、主が、あなたがたに教えよと命じられた命令・おきてと定め・である。あなたがたが、渡って行って、所有しようとしている地で、行なうためである。

6:2 それは、あなたの一生の間、あなたも、そしてあなたの子も孫も、あなたの神、主を恐れて、私の命じるすべての主のおきてと命令を守るため、またあなたが長く生きることのできるためである。

6:3 イスラエルよ。聞いて、守り行ないなさい。そうすれば、あなたはしあわせになり、あなたの父祖の神、主があなたに告げられたように、あなたは乳と蜜の流れる国で大いにふえよう。

6:4 聞きなさい。イスラエル。主は私たちの神。主はただひとりである。

6:5 心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。

6:6 私がきょう、あなたに命じるこれらのことばを、あなたの心に刻みなさい。

6:7 これをあなたの子どもたちによく教え込みなさい。あなたが家にすわっているときも、道を歩くときも、寝るときも、起きるときも、これを唱えなさい。

6:8 これをしるしとしてあなたの手に結びつけ、記章として額の上に置きなさい。

6:9 これをあなたの家の門柱と門に書きしるしなさい。

十戒という根本的な戒めが語られたところで、ここからは具体的な命令になってきます。そこでまずその命令の大切さが語られます。

それは「あなたがたが、渡って行って、所有しよ

うとしている地で、行なうため」の戒めであり、また「長く生きるための」「しあわせになり」「大いにふえ」るためという、その目的が明示されています。私たちが神様から受ける戒めもまた同じで、神様の愛によるものですから、喜んで従いましょう。

そのような神の愛に答えるとき、私たちの心もまた愛に満たされます。そこで神様は規則に従うという表面的なことではなく、「主を愛しなさい。」という心のあり方を求めておられます。

また主のことばを「心に刻む」ために、また「こどもたちに教え込む」ために、「すわっているときも、道をあるときも、寝るときも、起きるときも」、みことばを唱えるようにとっておられます。また「額の上」に、「そして門柱と門」に書きしるしなさいとあります。これだけの努力をするなら、私たちの心に御心が入ってくるでしょう。

そこまでではなくても、何か努力をするなら、大きな祝福となるでしょうから、やってみましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

